

平成 28 年度 プロジェクト研究費研究実績報告書

平成 29 年 5 月 8 日

代表者 上垣内 伸子

研 究 課 題 名	埼玉県および秩父市における木育を中心とした乳幼児期からの ESD の取り組みー地域で育つ・地域を創る子育て支援モデルの検討ー
研 究 期 間	平成 28 年 4 月 1 日 ～ 平成 29 年 3 月 31 日
共 同 研 究 者	西脇 二葉

1. 今年度の研究概要

日本型 ESD モデルの一つとして、日本独自の ESD の要素をもった子育て支援事業である木育（”MOKU-IKU”）を取り上げ、埼玉県および秩父市という固有の歴史・文化・社会・自然環境から生み出される ESD としての「木育」による保育・子育て支援の可能性を検討した。また、自然環境に共通性をもつ韓国の木育についても調査を試みた。併行して、国際的視野から固有の歴史・文化の側面より ESD の研究を深めるため、アジア諸地域に流布するわらべ唄を導入した保育について検討した。

（１）「木育」に関する調査

①ウッドスタート宣言都市である秩父市森づくり課が推進する秩父の森林と木材を利用した木育活動についての調査。木育の一環としての保健所 10 か月健診における秩父材の積木”Tumicco”の配布（誕生祝品）に関する市の担当者と考案者への聞き取りと、児童館における乳児の遊びの観察、保育士および保護者への聞き取り調査。東京おもちゃ美術館主催「森のおもちゃ美術館」にて日本各地の「木育」の調査。「木育」を中心とした子育て支援事業の ESD としての意義を検討。

②「木育」をプログラムに取り入れた保育者の現職研修の企画・実施。秩父市にて伐倒体験後木のおもちゃづくり、木育の講義。北本市の私立幼稚園の自然教育園にて、「森の幼稚園」の保育実践の観察。観察記録を用いた現職研修実施。幼児期の「木育」および自然体験の意義とそれへの保育者の果たす役割について討議。

③韓国で「木育」を推進する韓国木材文化振興会を訪問、関係者との情報交換と討議

（２）わらべ唄保育に於ける ESD

①その土地固有の言葉や動作や知恵が反映されるわらべ唄を保育に活用している実践例を検討し、親子の応答の様子を分析した結果を P E C E R A にて発表した。

②①の報告後、参加国の先行研究を概観しつつ日本国内のわらべ唄保育に関する実践事例の蒐集を、行った。

③②の結果、わらべ唄がなぜ継承されているのかを、その土地固有の文化の視点より検討する必要性を認識し、首都圏在住の育児中の保護者を対象に育児中に使用するわらべ唄に関する調査を実施した。

2. 研究の成果

(1) 「木育」を中心とした乳幼児期からの ESD の取り組み

秩父市では森づくり課を中心に、秩父の森林環境保全と林業の活性化、地域資源と産業への住民の関心を高めることを目的として、秩父の森林と木材を活用した「生涯木育」の取り組みを行っている。その一環が秩父材を用いた遊具の開発と全乳児への配布の試みである。

持続可能な開発 (SD) とは、「社会開発」「経済開発」「環境保全」の 3 つの柱の基礎として「文化」が存在する包括的概念であり、この 3 つの柱が相互依存的、双方向的に強化しあっていくものと定義される。秩父における乳幼児期からの「生涯木育」の取り組みは、秩父の森林を中心とする自然環境保全、歴史を持つ林業の振興、地域の資源である秩父材を活用し森林環境と地場産業親しむ生活の営みを通しての住民の地域帰属意識と産業文化の継承意識の醸成をもたらす、生涯教育としての ESD モデルの一つであると考えた。

国際学会での発表と各国の幼児教育研究者との対話、韓国木材文化振興会での討論からは、ESD における「木育」の意義を確認すると共に、「地元の木材を使った木製遊具で遊びながら乳幼児期から育つ」ことが、国際的には体験することが困難できわめて貴重な体験であることも確認された。

こうした調査および発表成果を基に、秩父市森作り課前島香保氏と共同で、保育者を対象とした木育プログラムを作成し、研修会を開催した。乳幼児期からの ESD の意味と意義を、林業体験や遊具作成を通して学習することができたという評価を得た。

(2) わらべ唄保育に於ける ESD

研究概要 (2) の③によって得た知見を基に、文化や地域性の反映されたわらべ唄には、単なる唄でなく「子育てに必要な言葉」としてとらえると、その定義化を試みることによって、わらべ唄保育の実践が育児不安の軽減につながる可能性を得るという成果を得た。

3. 研究成果の公表実績・予定 (年月日、方法)

(1) 「木育」を中心とした乳幼児期からの ESD の取り組み

1. Haruna YOSHIKAWA, Nobuko KAMIGAICHI, Asako WATANABE, Shigehiro ASADA: What's MOKU-IKU? <1> MOKU-IKU (Wood education) as ESD in Japan.

OMEP World Conference 2016. Ewha Womans University, Seoul, Korea. 2017.7. (ポスター)

2. Nobuko KAMIGAICHI, Haruna YOSHIKAWA, Mayo NISHIKAWA, Shigehiro ASADA:

What's MOKU-IKU? <2> The Wood-start Project for Child-rearing Support in Forested Regions.

OMEP World Conference 2016. Ewha Womans University, Seoul, Korea. 2017.7. (ポスター)

(2) わらべ唄保育に於ける ESD

1. Futaba NISHIWAKI: The Practice of ESD in Japan ; Focusing on The Parenting with Japanese Folk Songs.

PECERA 2016 Conference, Chulalongkorn University, Bangkok, Thailand. 2016.7. (口頭発表)

2. 西脇二葉、長田瑞恵：育児不安の軽減とわらべ唄の関連性について。

日本保育学会第 70 回大会、岡山大学. 2017.5. (ポスター発表) 予定

(3) 木育および子守唄の研究を含む乳幼児期の ESD に関する研究成果の公表

「乳幼児期の保育における ESD」(仮題) 2017 年に出版予定。

平成 28 年度(2016 年) 研究概要

研究所・部門	プロジェクト研究
研究課題名	埼玉県および秩父市における木育を中心とした乳幼児期からの ESD の取り組みー地域で育つ・地域を創る子育て支援モデルの検討ー
研究代表者	上垣内伸子
研究期間	平成 28 年 4 月 1 日 ~ 平成 29 年 3 月 31 日
共同研究者	西脇二葉

1. 研究成果取組状況

(1) 国内外の学会発表

状況	発表者, 発表課題, 学会誌名, 発表年月日, 発表場所	招待講演
発表済	<p>(1) 「木育」を中心とした乳幼児期からの ESD の取り組み</p> <p>1. Haruna YOSHIKAWA, Nobuko KAMIGAICHI, Asako WATANABE, Shigehiro ASADA: What's MOKU-IKU? <1> MOKU-IKU (Wood education) as ESD in Japan. OMEP World Conference 2016. Ewha Womans University, Seoul, Korea. 2017.7. (ポスター)</p> <p>2. Nobuko KAMIGAICHI, Haruna YOSHIKAWA, Mayo NISHIKAWA, Shigehiro ASADA: What's MOKU-IKU? <2> The Wood-start Project for Child-rearing Support in Forested Regions. OMEP World Conference 2016. Ewha Womans University, Seoul, Korea. 2017.7. (ポスター)</p> <p>(2) わらべ唄保育に於ける ESD</p> <p>1. Futaba NISHIWAKI: The Practice of ESD in Japan ; Focusing on The Parenting with Japanese Folk Songs. PECERA 2016 Conference, Chulalongkorn University, Bangkok, Thailand. 2016.7. (口頭発表)</p>	
発表予定		

(2) 雑誌論文(学内紀要含む)

状況	発表者, 発表課題, 学会誌名, 発表年月日, 発表場所	査読有無
投稿済		
投稿中 投稿予定		

(3) 図書等の出版

状況	発表者, 発表課題, 学会誌名, 発表年月日, 発表場所
出版済	
出版予定	「乳幼児期の保育における ESD」(仮題) 鴨川出版より 2017 年度刊行予定.

(4) シンポジウム・講演会等の開催

状況	主催者名・協賛社名等, 講演(発表タイトル), 実施年月日, 実施場所
開催済	
開催予定	

(5) 本研究に関連して本学経費以外に支援を得た補助金など

年度	機関・財団名, 事業名, 課題名
H27～29	独立行政法人 日本学術振興会、科学研究費助成事業、基盤研究(C) 「日本における乳幼児期のESD-地域で育つ・地域を創る保育・教育モデルの検討-」(研究代表者 千葉大学、富田久枝)